

令和5年度 郷土学習

—郷土を知り、郷土を愛する子ども育てる—

橿原市教育委員会（橿原市立畝傍南小学校）

1. はじめに

本校は歴史が深く、創立151年目を迎える橿原市南部に位置する伝統校である。

学校の北には畝傍山がそびえ、日本的な古くからの民家が建ち並んでいる。また、東には近鉄橿原神宮前駅を中心として建ち並ぶ、マンション群やホテル及び商店のある市街地が広がっている。

南には日本的な民家と新興住宅が混在する住宅街が広がり、西には白樫ニュータウンを控え、北西部には日本的な民家と振興住宅街が広がっている。駅に近い交通の便が良く、近鉄橿原神宮西口駅及び近鉄畝傍御陵前駅からの電車通学児童が、全校児童の5分の2を占めている。

児童は、やさしく、よく遊び、よく学び、課題の解決に向かって熱心に取り組んでいる。また、縦割り班の活動や読書活動にも積極的に取り組み大きな成果を挙げている。

2. 教育目標（本年度の研究目標または郷土学習のめあて）

互いを認め合い、思いを受け止め合う子どもを育てる

～ 好奇心を持ち、自ら考え、活動できる教育を通して ～

3. 学校での取組

① 1年生 生活科

地域にある公園を訪れ、遊具で遊んだり四季の移り変わりを観察したりした。特に春には、クローバやタンポポの花を使って首飾りや冠などを作ったり、オオバコ相撲をしたりして自然に親しんだ。また、秋には、落ち葉やドングリ、草の実などを採取し、取ってきた葉っぱなどを使って、遊び道具を作ったり、画用紙に貼り付けて作品を作ったり、ファッションショーをしたりした。

子どもたちは、地域の自然に触れ、自然の素晴らしさや自然を大切にしようという気持ちも生まれたと思われる。



② 2年生 生活科

春の校外学習で、橿原神宮前駅中央口周辺の校区たんけんに出かけた。公共施設や店などを見学し、どんな建物が駅前に並んでいるのか気付くことができた。3学期は、部団ごとにグループを作り、自分の住む町の紹介をするために、店や公共施設などを調べたり、インタビューしたりして、発表し合った。この学習を通して地域や仕事・くらしの特色を学び、生活と関連付けて考える力をつけることができた。また、グループ活動をするこ



とで、一人一人役割を果たしながら、助け合い、お互いの良さをすることもでき、実りある学習をすることができた。

③ 3年生 社会科



1学期には、校区内を歩き、どこにどんな施設があるか確認し、その結果をもとに校区地図にまとめた。2学期には校区内にある工場を見学し、見学して分かったことをグループごとにまとめ、発表会を行った。また、校区外だがスーパーマーケットも見学し、商業や物流についても学ぶことが出来た。このように地域について学ぶことにより、地域の人々とも絆を深めることが出来て良かった。

④ 4年生 総合的な学習の時間

校区にある老人ホーム「榎原園」を訪問し、高齢者の方と交流した。榎原園で、児童は歌を歌ったり、手作りのリサイクルおもちゃと一緒に遊んだりした。高齢者の方は孫のような子どもたちと関わって喜んでおられた。児童も普段祖父母と暮らしていない子がほとんどのため、貴重な体験となつたし、高齢者を思いやる優しい気持ちを持つことができた。



⑤ 5年生 総合的な学習の時間

学校の近くに米作りをしている農家がないので、JAの片山さんから「バケツ苗」の栽培指導を受け、稲の生長を観察した。水の管理が大変で収穫は少なかったが、米作りの大変さや収穫の喜びを味わうことが出来た。また、「米新聞」を各自で作成し、米作りについて学習を深めることができた。



⑥ 6年生 国語科

「ようこそ私たちの町へ」の単元で、町の魅力を伝えるためのポスター作りを行った。そのために、まず、地域の施設を見学したり、写真を撮影したり、取材したり、地域の人々にインタビューしたりした。そして、構成を考えて記事を書き、最後に発表会を行った。

4. おわりに

成果と課題

- ・ 地域について学び、郷土の良さに気づくことができた子が多かったと思う。また、地域住民との絆も深まり、開かれた学校づくりに役立っていると思われる。
- ・ 学校全体として、郷土学習について6年間を見据えて系統性を持たせること、そして、次の学年へしっかり引き継ぎを行うことが重要となってくる。
- ・ 「地域の人材マップ」も定期的に点検する必要がある。